

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成22年9月14日)

項目	ページ
1 農地・水・環境保全向上対策及び中山間地域等 直接支払制度の実施について	
【農政課】	1
【農地・水保全課】	1
2 県有林のオフセット・クレジット（J-VER） の販売について	
【森林・林業総室】	2
3 第31回全国豊かな海づくり大会1年前プレイ ベントについて	
【全国豊かな海づくり大会推進課】	3
4 高温少雨による農作物への影響について	
【農林総合研究所】	5
5 境港地域プロジェクトまき網改革計画の審査結 果について	
【境港水産事務所】	7

農 林 水 産 部

農地・水・環境保全向上対策及び中山間地域等直接支払制度の実施について

平成22年9月14日
農 政 課
農 地・水 保 全 課

1 農地・水・環境保全向上対策

(1) 実施状況等

- 本対策は平成19年度から始まり、本年度で4年度目（平成19～23年度）。
- 平成22年度の取組みは活動組織数393（対前年度31増）、協定面積10,090ha（対前年度451ha増）。
- 増加の主な要因として、八頭町で今年度から中山間地直払との重複を認めたことが挙げられる。
- 未実施市町村：境港市、若桜町、日吉津村、江府町

(平成22年8月31日現在)

年度	実施市町村	共同活動				営農活動	
		活動組織数	協定面積(ha)		カバー率(%)*	活動組織数	対象面積
			うち、交付金対象面積①				
H19	13	246	6,100	5,940	16.5	9	106
H20	14	328	8,673	8,414	23.4	13	159
H21	15	362	9,639	9,283	25.6	21	221
H22	15	393	10,090	9,780	27.4	23	251

*カバー率は農振農用地(35,717ha)に占める割合

1 活動組織あたりの状況 平均取組面積：25.7ha 平均交付額：983千円
活動組織の主な取組み 施設の点検・維持管理、機能診断、道水路補修、イノシシ防護柵設置、景観作物の栽培、冬季湛水等

2 中山間地域等直接支払制度

(1) 実施状況等

- 本制度は昨年度で2期対策が終了し、本年度から3期対策（平成22～26年度）がスタート。
- 現在、696組織が申請を行い（対前年度比42増）、協定面積は8,111ha（対前年比協定938ha増）。
- 増加の主な要因として、①平成22年度から新たに3法指定地域に指定された地区（旧大山町の一部、旧名和町及び旧中山町）で協定数が増加したこと、②団地要件や体制整備単価の要件など制度が改正されたことによるものと考えられる。
- 境港市、日吉津村は対象農用地がない。

(平成22年8月31日現在)

年度	実施市町村	協定数	協定面積(ha)	カバー率(%)
H21実績 (2期対策最終年度)	17	654	7,173	20.1
H22見込み (3期対策初年度)	17	696	8,111	22.7

*カバー率は農振農用地(35,717ha)に占める協定面積の割合

1 協定あたりの状況 平均取組面積：11.7ha 平均交付額：1,643千円
協定の主な取組み 耕作放棄地防止活動、機械・農業作業の共同化、担い手への農地集積等

3 今後のスケジュール等

- 農地・水・環境保全向上対策において、活動組織は活動3年度目に担い手や農地等、概ね10年後の地域の将来像（体制整備構想(案)）を策定することとなっており、昨年度に引き続き策定内容等の支援を行なう（平成20年度に取組みを開始した組織が対象）。
- 中山間地域等直接支払制度では、今後市町村が現地確認等を行い、認定を行なう（9月30日まで）。
- 両施策に取組み組織を対象に、農業用施設等の機能診断や簡易補修に係る技術支援を引き続き行なう。

県有林のオフセット・クレジット（J-V E R）の販売について

平成22年9月14日
森林・林業総室

1 概要

県では、森林を活用したカーボン・オフセットを推進するため、県有林でモデル的にJ-V E Rの認証を取得し、このたび、J-V E Rの販売を開始しました。販売に当たっては、県内外の事業者に対し直接募集を行うとともに、新たに選定する「J-V E R地域コーディネーター」を活用して、主に県内事業者等とのマッチングを図ることにより販売を促進していくこととしております。

また、9月10日に、J-V E R販売の第一号として、山崎製パン株式会社と販売に関する協定を締結しました。

2 県有林J-V E Rの販売と地域コーディネーターの募集

- (1) プロジェクト名 鳥取県県有林J-V E Rプロジェクト
- (2) 内 容 板井原県有林（日野郡日野町地内）において、平成20年度、21年度の二酸化炭素吸収量について、環境省オフセット・クレジット（J-V E R）の認証を取得したもの。
- (3) 販 売 量 603トン
- (4) 販 売 方 法 ①購入者を直接募集：553トン
②J-V E R地域コーディネーターによる販売：50トン
- (5) コーディネーターの募集 県内事業者等にカーボン・オフセットを提案し、県有林J-V E Rのマッチングを行う地域コーディネーターを募集。
(販売手数料：売買契約額の5%、活動期間：平成24年度まで)

※J-V E Rの販売と地域コーディネーターの募集は、8月26日から開始。

3 山崎製パン株式会社へのJ-V E Rの販売

- (1) 協 定 名 とつとりの森「カーボン・オフセット」パートナー協定
- (2) 販 売 量 100トン
- (3) 購 入 目 的 鳥取県の素材を使用したカーボン・オフセット対象商品（パン等）に使用（パン1個当たり1円をJ-V E R購入資金に使用）
- (4) 商 品 の 概 要 大山乳業農業協同組合の牛乳や二十世紀梨を使ったパン等
 - ・販売目標：1,575,000個
 - ・販売区域：鳥取県、岡山県、四国地方等

(参考)

カーボン・オフセット：企業等が、自主的に他者の吸収・削減活動に資金協力等を行い、削減できない二酸化炭素（CO₂）排出量を埋め合わせること。

J-V E R：オフセット・クレジット（J-V E R）制度（環境省が平成20年度に創設）により認証されたCO₂の削減・吸収量。企業等のカーボン・オフセットに使用される。森林のCO₂吸収量も認証の対象。

第31回全国豊かな海づくり大会1年前プレイベントについて

平成22年9月14日
全国豊かな海づくり大会推進課

大会の1年前に、子どもから大人まで楽しめる華やかなイベントを鳥取港及び境港で開催し、大会に向けた気運を盛り上げる。

1 海づくりフェスタin鳥取港（鳥取お魚まつり）

- (1) 日 時 平成22年10月9日（土） 9時から14時まで
- (2) 場 所 マリンピア賀露（港湾関連用地、かろいち周辺）
主会場 鳥取県漁協沖合荷捌き所
- (3) 主催等 第31回全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会
鳥取お魚まつり実行委員会
- (4) 関連行事 鳥取お魚まつり
鳥取港に水揚げされるハタハタ、モサエビ、アカイカ、タイ、サワラ等の水産物を全国豊かな海づくり大会のプレイベントを契機に大々的にPRする。
- (5) 行事内容 鳥取県の将来の豊かな海づくりを担う子どもを中心とした行事を行う。
 - ① プロローグ ・浜村小学校による「貝殻節」の踊り
 - ② 開 会 式 ・オープニング演奏……鳥取ジュニアオーケストラ
・大会旗の入場………先導：賀露みどり保育園鼓隊
旗手：賀露小学校（白うさぎ大使）
・挨拶………知事、鳥取市長
 - ③ 表 彰 式 ・功績団体、大会ポスター、大会公式弁当コンテスト 等
 - ④ 漁船パレード ・漁船によるパレード（10隻）（新船「おしどり」の披露）
・田後海洋少年団による手旗信号
 - ⑤ 記念放流 ・児童代表メッセージ（賀露小学校 白うさぎ大使2名）
 - ⑥ さかなクンステージ
 - ⑦ 郷土芸能 ・因幡の傘踊り（国府東小学校）、あゆ太鼓（河原町内小学校連合）
 - ⑧ 全国豊かな海づくり大会PR展示
・大会の概要、白うさぎ大使の取組、功績団体表彰の取組
・栽培漁業紹介、とつとりの海、魚、漁業・漁港、環境保全の取組展示
・その他 食のみやこ鳥取県、山陰海岸ジオパーク、鳥取県観光案内
 - ⑨ 物販・体験イベント（海づくり大会の主役となる漁業者を主体のイベントとする。）
・チャリティ・セリ体験（売り上げの一部は海難遺児募金へ）
・お魚PRコーナー
お魚の栄養………鳥取県栄養士会
お魚を使った料理教室………県漁協女性部連絡協議会
食のみやこ鳥取PR………食のみやこ推進課
ハタハタのブランド化・脂肪分測定……水産試験場
コンテスト入賞弁当の販売………入賞業者 等
 - ⑩ 漁師コーナー＜鳥取県漁業協同組合＞
・鮮魚販売、イカ焼き、サザエ壺焼き、ハタハタ唐揚げ販売
・漁師鍋無料サービス 等
 - ⑪ 砂像で来場者を歓迎 ＜鳥取市＞

2 海づくりフェスタin境港（境港水産まつり）

- (1) 日 時 平成22年10月10日（日） 8時から15時まで
- (2) 場 所 魚市場周辺（境港市昭和町）
- (3) 主催等 第31回全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会
境港水産まつり実行委員会
- (4) 関連行事 境港水産まつり
例年行われる「境港水産まつり」と連携して開催し、全国豊かな海づくり大会を大々的にPRし、大会へ向けた気運を盛り上げる。
- (5) 行事内容 鳥取県の将来の豊かな海づくりを担う子どもを中心とした行事を行う。
- ① 開 会 式
 - ・オープニング演奏……境港市立第一中学校
 - ・大会旗の入場……先導：美哉幼稚園
旗手：境港総合技術高等学校
 - ・挨拶……知事、境港水産まつり実行委員会会長
 - ② 漁船パレード ・境港ならではの20隻以上の漁船による大パレード
 - ③ 記念放流
 - ・児童代表によるメッセージ 境港市立境小学校（白うさぎ大使2名）
 - ・船上での海上放流を予定
 - ④ ミニゆるキャラカップ
 - ・ととリン、カニーラ（鳥取市）、うみさち（大山町）、かに太郎（境港市）等による縄跳び、すもう、PK合戦による対決
 - ⑤ 全国豊かな海づくり大会PR展示
 - ・大会の概要、白うさぎ大使の取組、功績団体表彰の取組
 - ・栽培漁業紹介、ととりの海、魚、漁業・漁港、環境保全の取組展示
 - ・その他 食のみやこ鳥取県、山陰海岸ジオパーク、鳥取県観光案内
 - ⑥ 例年の境港水産まつりでのイベント行事を開催＜境港水産まつり実行委員会＞
 - ・境港大漁太鼓
 - ・神戸税関音楽隊演奏
 - ・魚のつかみ取り大会
 - ・カニの甲羅飛ばし大会
 - ・セリ体験&マグロ解体ショー
 - ・「はやぶさ」等体験乗船
 - ・水産学習展示、魚食普及 等
 - ・鮮魚等即売、飲食・物販、大抽選会 等

3 プレイメントに係る全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会の経費 7,717千円

内訳		(単位：千円)
海づくりフェスタin鳥取港	鳥取県漁業協同組合	500
	鳥取市	900
	全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会	6,417
計		7,817
海づくりフェスタin境港	第27回境港水産まつり実行委員会	5,000
	全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会	1,300
	計	6,300

高温少雨による農作物への影響について

平成22年9月14日

農林総合研究所

1 気象の経過・今後の見通し

- 7月17日の梅雨明け以降、降雨が少なく気温が高い状態が続いている。7月17日から9月5日までの降水量は、鳥取で41mm（平年比18%）、米子で63mm（同15%）にとどまっている。また同期間の日平均気温は、鳥取で29.5度（平年より3.1度高い）、米子で29.6度（同3.4度高い）と高く推移している。
- 9月3日発表の1か月予報によると、向こう1か月は平年に比べて晴れの日が多く、気温の高い状態が続くとみられる。

2 農作物生育への影響と予測（9月6日現在）

作目等		生育への影響
作物	水稻	<ul style="list-style-type: none"> 出穂前後の高温による白濁未熟粒<small>はくたくみじゅくりゅう</small>が早場米の一部地域でみられ、今後収穫される地域での発生も懸念される。 高温の影響で内穎褐変病<small>ないえいかつべんびょう</small>が多発傾向にある。 カメムシの発生が多く、斑点米被害粒の発生が懸念される。
	大豆	<ul style="list-style-type: none"> 高温乾燥により葉が萎れており、さや数の減少、収穫期の青立ち被害（収穫の際に茎・葉の水分で汚損粒が生じる）が予想される。
果樹	なし	<ul style="list-style-type: none"> 高温により果実の成熟が遅れており、収穫果の色が青い状態が続いている。小玉傾向だが糖度は高めに推移しており、食味がよい。 果実の一部に「日焼け」症状（極端な色ムラ）がみられ、等級低下の要因となっている。
	かき	<ul style="list-style-type: none"> 「日焼け」果が多く発生している。特に「西条」では果肉障害や変形に発展するものも見られ、減収が予想される。また樹上軟化や脱渋中の軟化が多くなる可能性がある。
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 秋冬ねぎの生育、肥大ともに悪く欠株も発生している。 春ねぎの箱育苗での苗立枯れが多く、一部で定植苗が不足している。地床育苗では葉先の枯れ込みと、定植後の欠株が多い。 高温の影響で軟腐病<small>なんぷびょう</small>、萎凋病<small>いちょうびょう</small>、白絹病<small>しろきぬびょう</small>、ネギアザミウマの発生が多くなっている。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 育苗：一部で発芽不良、根痛み、生育ムラが生じている。 定植後：苗の一部が乾燥により枯死している。かん水と補植で対応しているが、かん水困難な畑では欠株が目立つ。生育も10日程度遅れている。 収穫の遅れ（当初は9月末からを予定）と品質低下が懸念される。

	ナガイモ	<ul style="list-style-type: none"> ・一般ナガイモ：茎葉の繁茂状態が例年よりやや劣っている。 ・ねばりっこ：茎葉の繁茂は例年並みだが、葉焼け症状がみられ葉色が薄い。 ・ハダニ、ヤマノイモコガ等、害虫の発生が多い。 ・堀採り調査によると芋の先端が細く重量が軽い（前年対比1割程度減）。
花き	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・高温の影響で開花が遅れ、出荷できないものが見られた。
	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> ・抑制作型では高温の影響により蕾、葉先の枯れ込みが見られる。また、茎の伸び出しも遅れ気味である。
	ストック 花壇苗等	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開放や遮熱資材による被覆などが不十分な圃場で、発芽のムラが見られる。 ・ストックは高温のため花芽分化が遅れており、中山間地では出荷が遅れる見込み。なお、平坦地の花芽分化は9月中・下旬頃から始まる予定。

3 対策技術

関係機関に下記の内容を公表し注意を喚起した。

(1) 作物

- ・水稻は白濁未熟粒^{はくたくみじゅくりゅう}等による品質の低下を軽減するため適期収穫に努める。
- ・大豆は土の乾燥状態を見極めて畝間かん水する。

(2) 果樹

- ・樹体を健全に維持するため、収穫の終わったナシ、ブドウ、モモなどのかん水に努める。収穫までに間がある樹体にもかん水する。
- ・土壌乾燥を防ぐため、除草と株元のマルチを励行する。
- ・カキやリンゴの着色促進のための反射マルチは、高温傾向が解消するまで控える。

(3) 野菜

- ・露地野菜：定植後は必ずかん水し、活着を促す。活着後も、積極的にかん水を行う。
- ・施設野菜：朝または夕方にかん水を行う。遮熱資材等を用いてハウス天井部を被覆し、側面や出入り口は遮へい物を取り除いて、できる限り風通しを良くする。
- ・病害虫：ハダニ類、アザミウマ類が多発しやすいため、初期防除を徹底する。

(4) 花き

- ・ストックは播種1週間前からハウス全体を遮熱資材で覆い地温を下げる。播種直後は少量のかん水を頻繁に行う。遮熱資材は1回目の八重咲き鑑別終了後に除去する。
- ・施設花きではハウスの出入口とサイドを出来る限り開放し、風通しを良くする。また、日中は遮熱資材で気温を下げる。
- ・スリップス、ハダニなどの害虫防除を徹底する。

(5) 共通

- ・日中の高温時を避けて作業できるよう工夫するとともに、体調が優れない場合は、高温時の作業を見合わせる。
- ・作業中はこまめに休息を取り、水分と少量の塩分を頻繁に補給する。

境港地域プロジェクトまき網改革計画の審査結果について

平成 22年 9月 14日
境港水産事務所

大中型まき網漁業の経営構造の抜本的改革と産地機能強化を目的とした地域計画について、中央機関の審査を受けたが、漁船の大型化に対する他地域からの反対意見により、「保留、継続審議」という結果となった。

1 審査会の名称及び審査委員等

名称：漁船漁業構造改革プロジェクト「第2回中央協議会」
委員：学識経験者14名（うち当日出席11名）
事務局：特定非営利活動法人 水産業・漁村活性化推進機構

2 審査会の日時・場所

平成22年8月26日（木）10時～12時
東京都千代田区「航空会館」会議室

<出席者>

中央協議会委員11名、水産庁関係者、中央協議会事務局
他県プロジェクト関係傍聴者、マスコミ等

<地元側説明者等>

大谷会長（境港プロジェクト協議会）、佐々木理事（山陰旋網漁協）、
島谷副会長（境港鮮魚仲買協同組合）、安部副市长（境港市） ほか

3 審査結果

審査結果は、保留、継続審議

- ・計画は高く評価できるが、関係者の懸念を払拭するよう内容に更なる改善を要望するとのコメント

<中央協議会委員の主な意見>

- ・地域が一体となって練り上げた計画で、新たな水産業を構築するための多くのチャレンジ性を持った提案であり高く評価
- ・経営展望に堅実性のある良心的な計画

<山口県関係者の意見>

- ・計画には反対しないが漁船の大型化には反対で、沿岸漁業との調整が不十分
- ・漁獲量削減についての更なる証明が必要
- ・萩市沖の漁場を守るため、まき網漁船の規制強化を要望

4 今後の方針

水産庁と緊密に連携して、当該改革計画が早期に実施できるよう山口県関係者との協議を促進していく。

- ・9月2日、境港漁船漁業構造改革推進プロジェクト地区協議会を開催し、地元関係者に結果報告及び対応協議
- ・9月6日、地区協議会の結果を踏まえ水産庁と対応協議

<参考>境港地域プロジェクトまき網改革計画の概要

1 境港地域プロジェクト協議会の概要

設置者：境港水産振興協会
対象漁業：大中型まき網漁業等
構成員：漁業生産者、卸業者、流通関係者、漁協、学識経験者、県、市等

2 計画概要

(1) 漁業生産の取組

- ① 現行の5隻船団体制による操業から、4隻船団体制の操業に削減しコスト低減
- ② 船団の中心となる網船を現行135t型から、居住性・安全性の向上を目的とした省エネ構造250t型に大型化
- ③ 船上凍結等の新たな製品を創出する取組を実施

(2) 流通販売の取組

- ① 陸上の市場に魚体選別機能を整備し、鮮度重視の取扱いにより付加価値向上
- ② 地域ブランド・魚食普及への取組 等